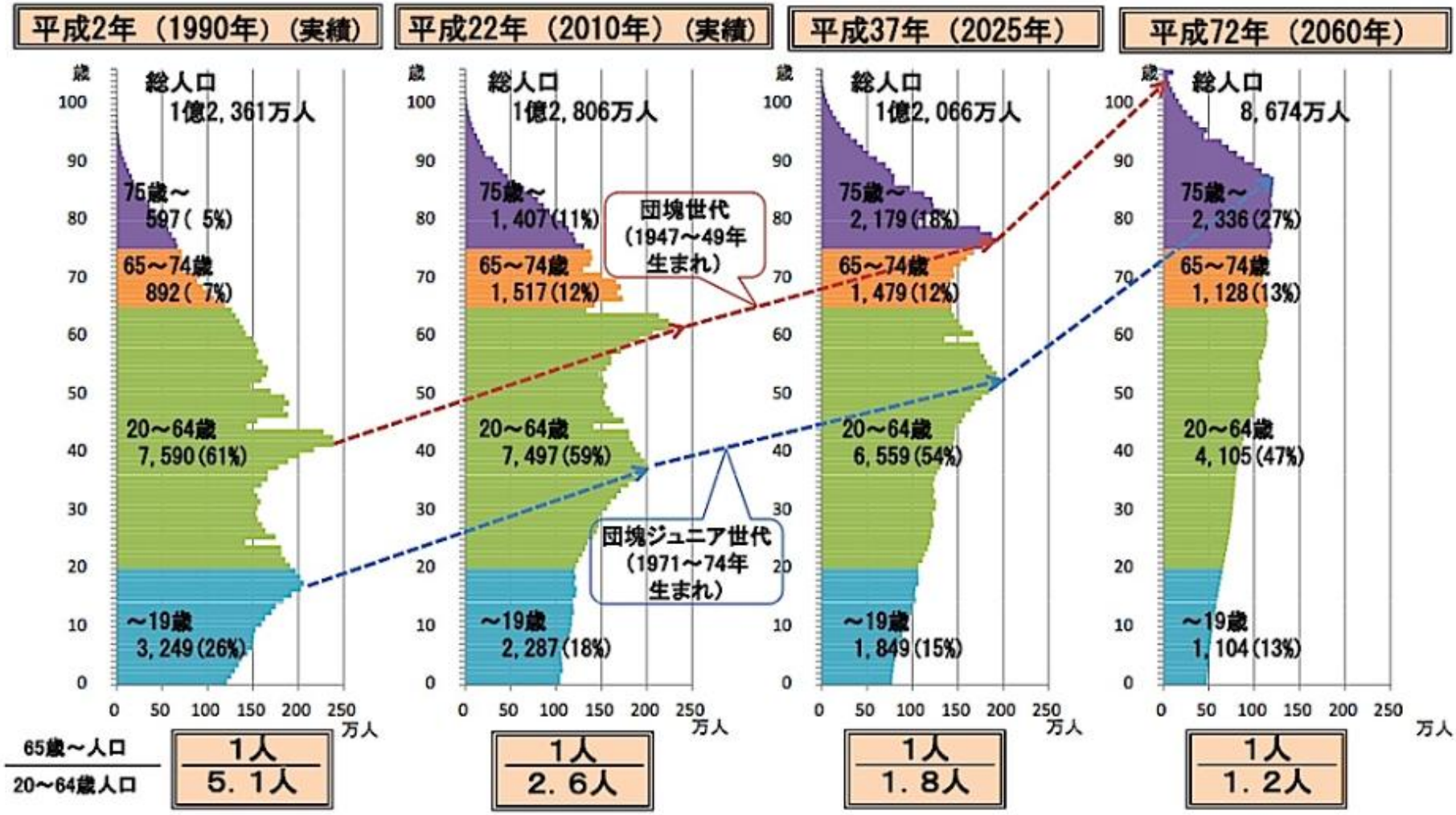
③在宅医療の課題

人口ピラミッドの変化

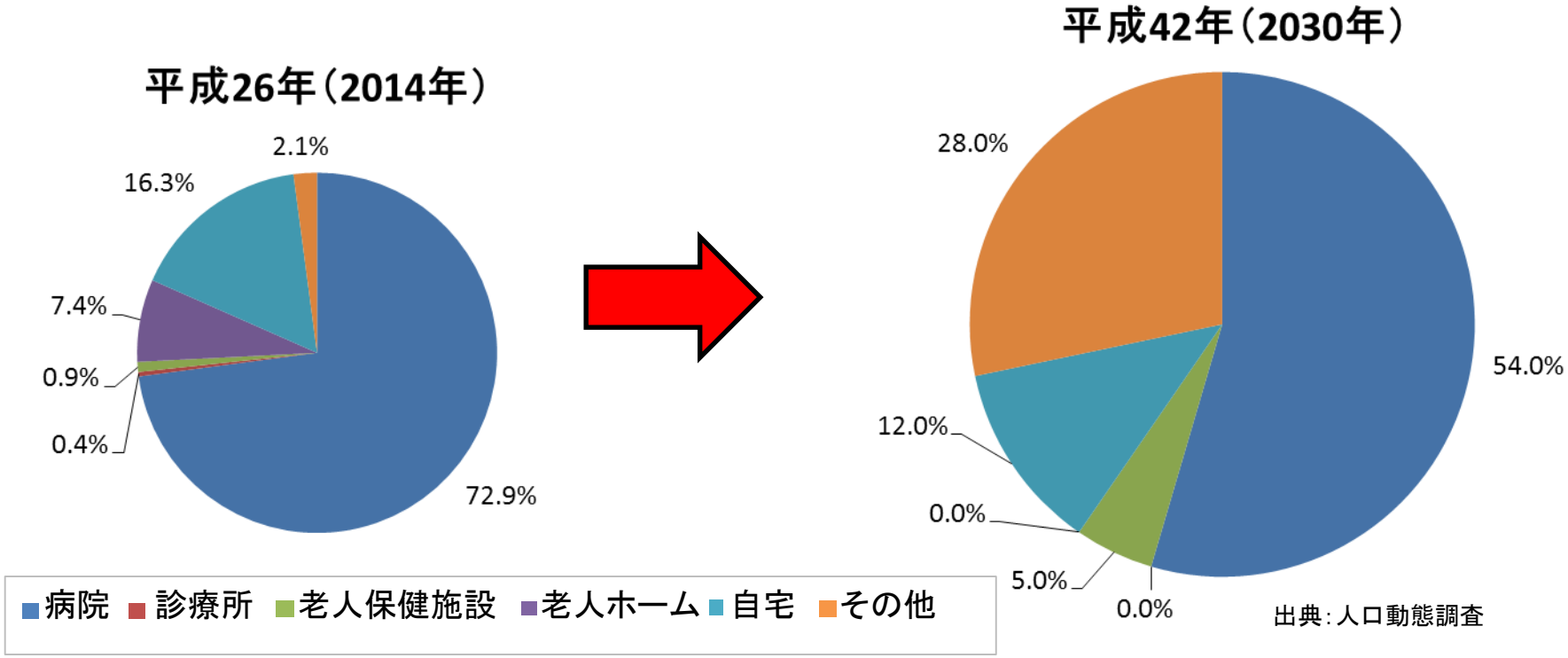
○団塊世代が後期高齢者年代に突入する2025年をピークに人口は減少する。現在、2.6人で1人の高齢者を支えているが、2025年には1.8人で1人で支えることになる。



（出所） 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）

死亡場所の年次推移

〇死亡場所の年次推移は、病床数の増加が見込めないと仮定した場合、今後「多死時代」を迎えることで、死亡する場所が定まらない「その他」が増加することが推測される。

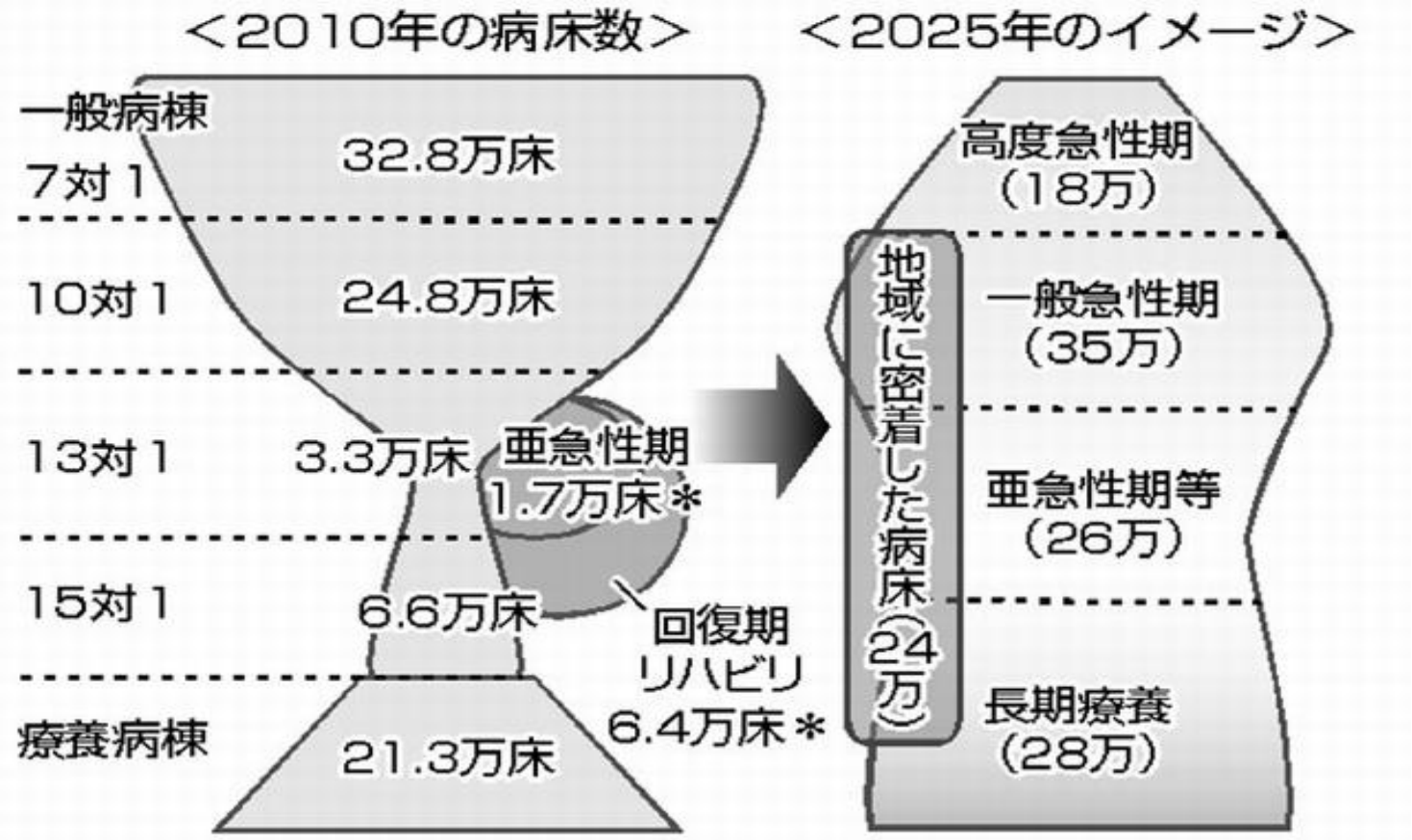


出典：人口動態調査

〇2030年には、全国での死亡者約40万人増える見込みであるが、看取り先の確保が困難である。（厚生労働省）

病床の「機能分化」のイメージ

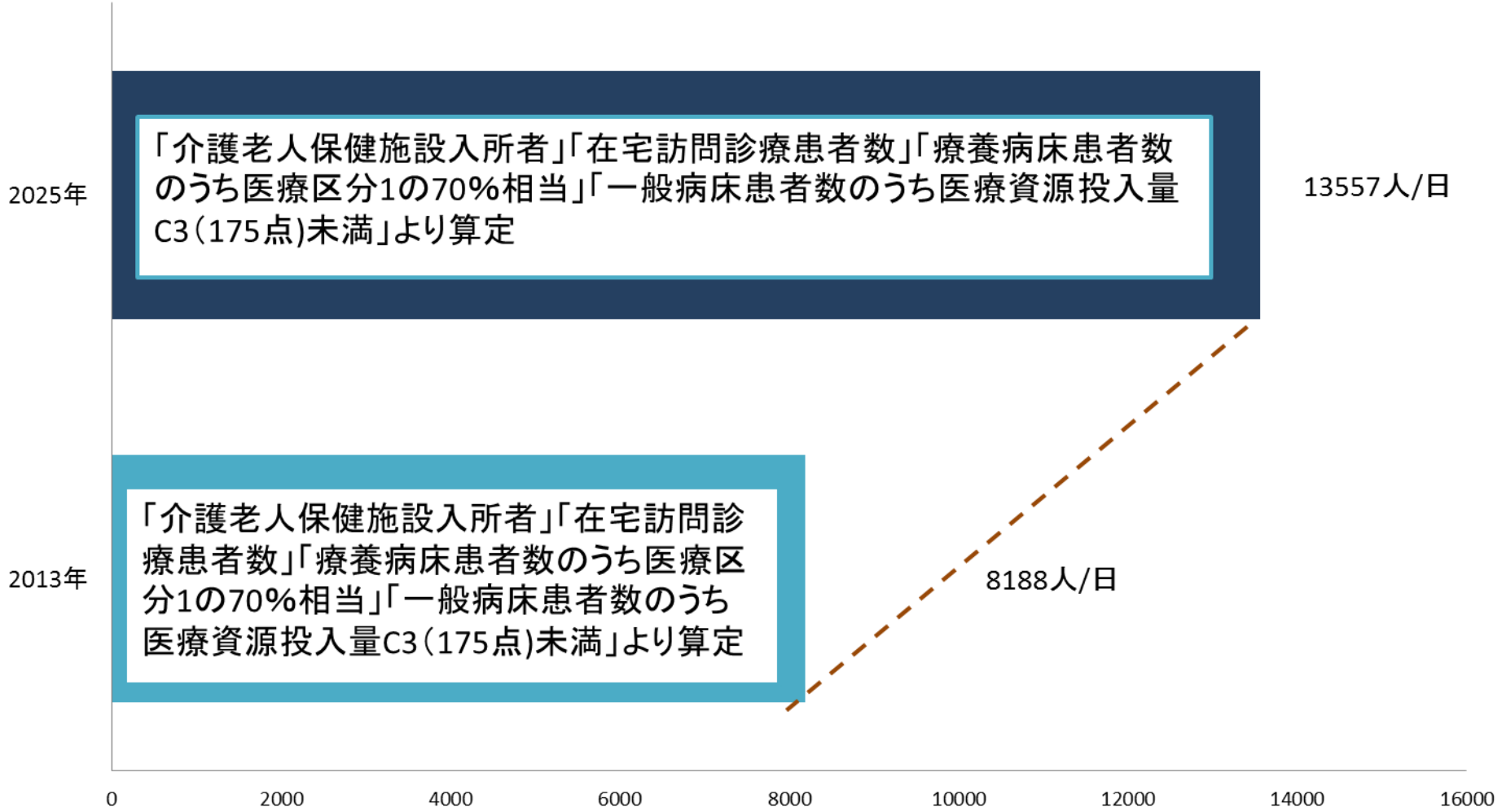
○超高齢化社会を迎え、医療需要が高まるなか、高齢者が増える割合に比べると病床数はあまり増えない。医療区分の低い患者は在宅で医療を受けて生活することになる。



＊亜急性期、回復期リハビリの病床数については2012年7月現在
（厚労省資料から）

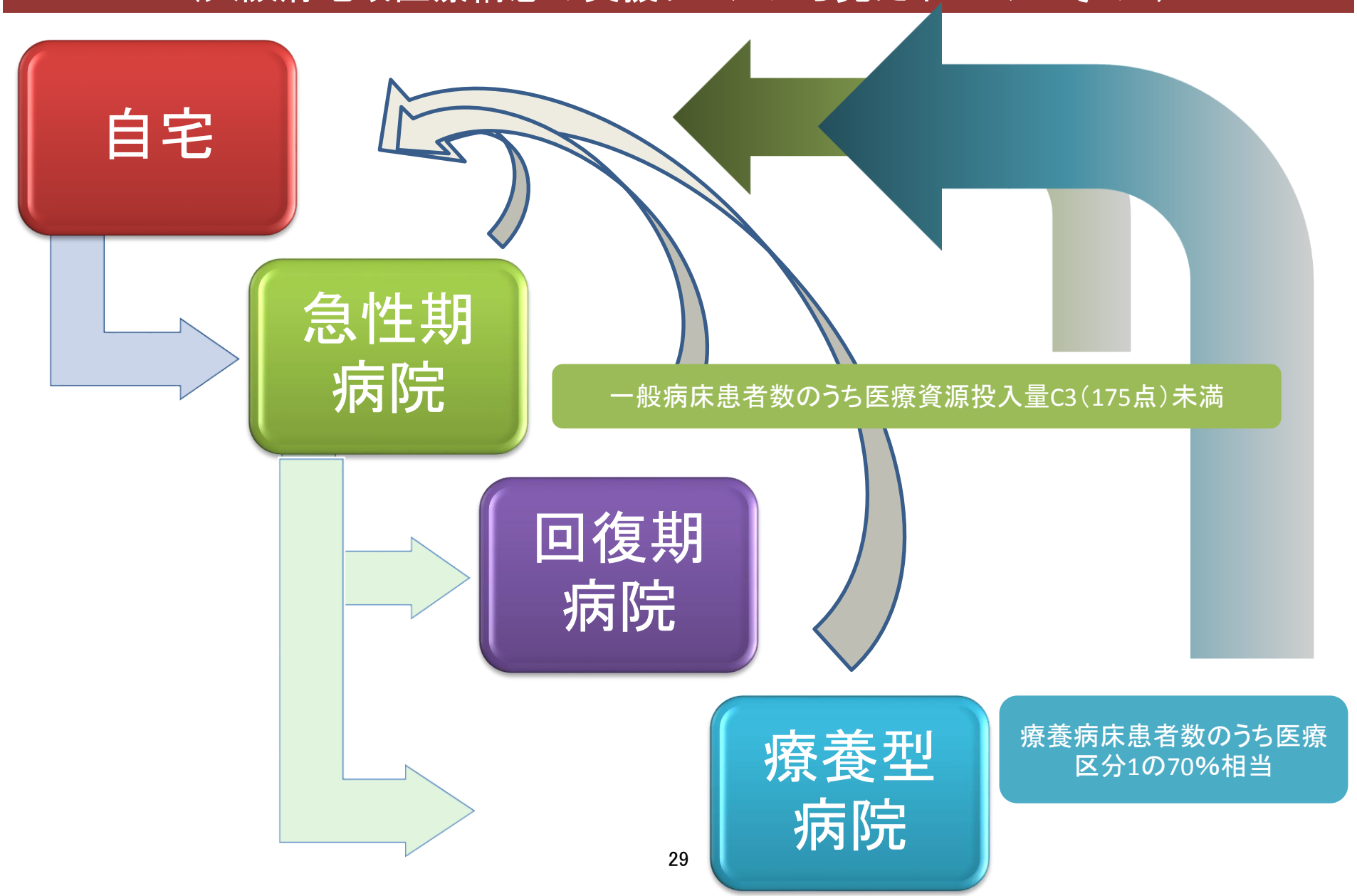
豊能圏域での訪問診療が必要な患者数の推計

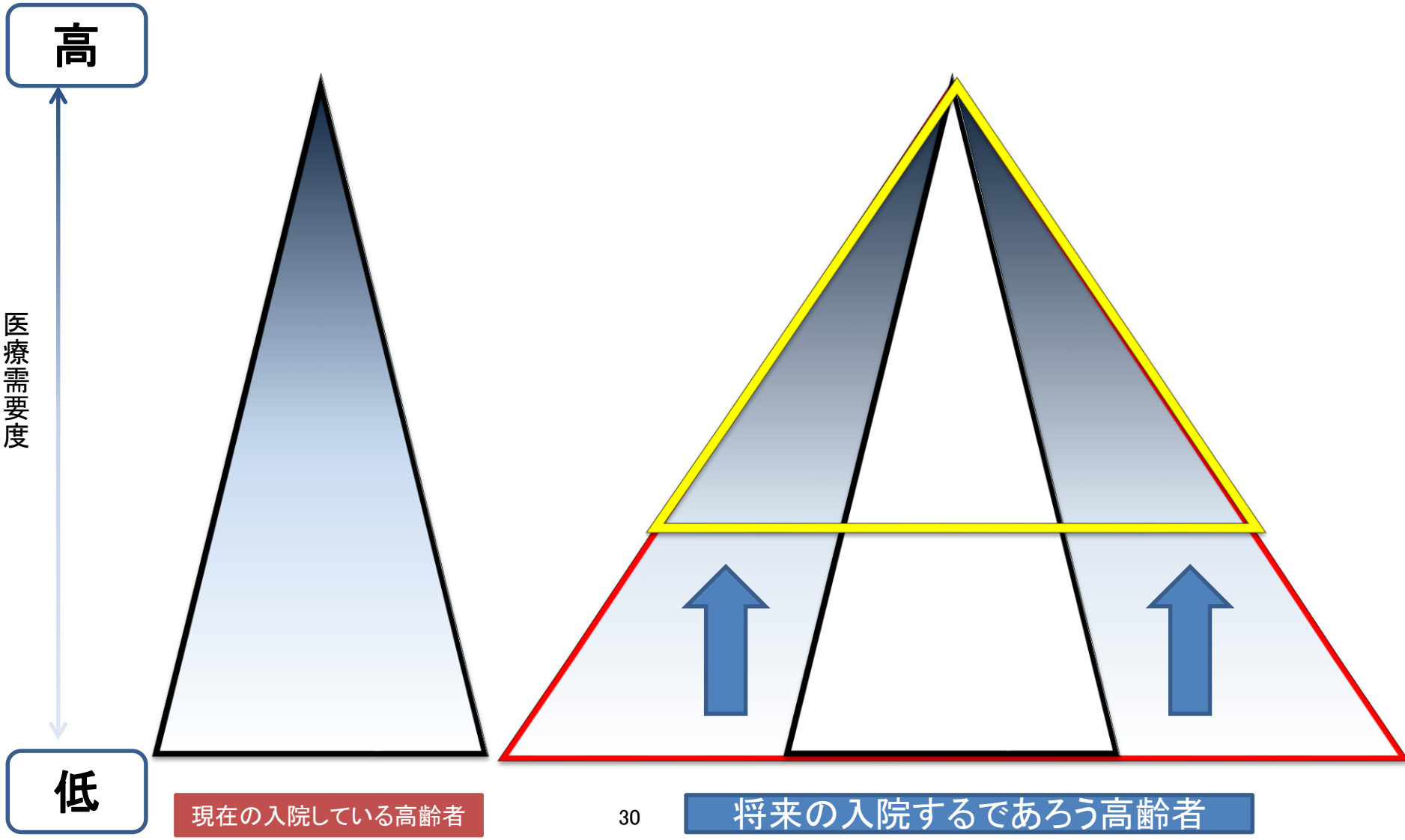
〇大阪府が支援ツールを用いて在宅医療を必要とする患者を算定した。在宅医療等の医療需要のうち、訪問診療を必要としている患者数は2013年から2025年で約1．6倍になる。



出典：大阪府医療構想（大阪府保健医療計画別冊）より

なぜ、在宅医療が必要なのか？
（大阪府地域医療構想の支援ツールから見たイメージ　その1）



なぜ、在宅医療が必要なのか？

（大阪府地域医療構想の支援ツールから見たイメージ　その2）